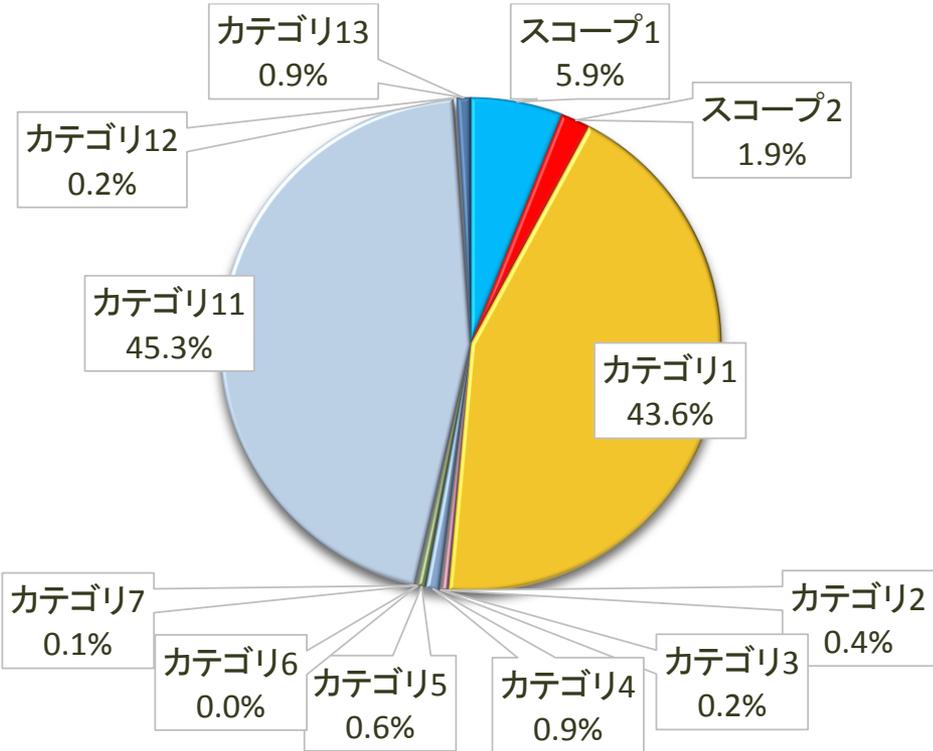


鹿島建設株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 業種 : 建設業 ● 事業概要 : 建設事業、開発事業、設計・エンジニアリング事業 ● 事業規模 : 売上高1,203,845百万円 従業員数7,611人 (いずれも単体)
2.削減目標案 ※定量値公表 が難しい場合、 定性的説明でも可	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <p>目標 施工高億円当たりのCO2排出量原単位を、2030年までに1990年比で35%削減 (総量では65%削減に相当)</p> <p>取り組みとして施工の合理化や生産性向上、代替燃料の使用や省燃費運転など</p> <p><Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <p>Scope3 カテゴリ11</p> <p>目標 設計施工により提供した建築物における運用段階のCO2排出量を、 その年に施行されている国の省エネルギー法で設定されている 標準的なビルのCO2排出量(ベースライン)から20%以上削減する</p> <p>取り組みとしてZEBの実現、汎用化に向けた技術開発など</p> <p>目標 2050年までに自社の事業活動に起因するものだけでなく、 提供する建造物から排出される温室効果ガスも含めた"Zero Carbon"をめざす。 取り組みとして低炭素コンクリートの開発やその他技術開発など</p>

鹿島建設株式会社

項目	内容																											
3.基準年のGHGインベントリ	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2・3の排出量の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE1 : 17万 [tCO₂] 																										
	 <table border="1"> <caption>GHG Inventory Breakdown by Category and Scope</caption> <thead> <tr> <th>Category / Scope</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カテゴリ1</td> <td>43.6%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ11</td> <td>45.3%</td> </tr> <tr> <td>スコープ1</td> <td>5.9%</td> </tr> <tr> <td>スコープ2</td> <td>1.9%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ13</td> <td>0.9%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ12</td> <td>0.2%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ7</td> <td>0.1%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ6</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ5</td> <td>0.6%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ4</td> <td>0.9%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ3</td> <td>0.2%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ2</td> <td>0.4%</td> </tr> </tbody> </table>	Category / Scope	Percentage	カテゴリ1	43.6%	カテゴリ11	45.3%	スコープ1	5.9%	スコープ2	1.9%	カテゴリ13	0.9%	カテゴリ12	0.2%	カテゴリ7	0.1%	カテゴリ6	0.0%	カテゴリ5	0.6%	カテゴリ4	0.9%	カテゴリ3	0.2%	カテゴリ2	0.4%	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE2 : 6万 [tCO₂]
	Category / Scope	Percentage																										
カテゴリ1	43.6%																											
カテゴリ11	45.3%																											
スコープ1	5.9%																											
スコープ2	1.9%																											
カテゴリ13	0.9%																											
カテゴリ12	0.2%																											
カテゴリ7	0.1%																											
カテゴリ6	0.0%																											
カテゴリ5	0.6%																											
カテゴリ4	0.9%																											
カテゴリ3	0.2%																											
カテゴリ2	0.4%																											
<p>※基準年である1990年のデータがないため、2013年度のデータを示す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE3 : 127万 [tCO₂] <p>目標の対象セクター :</p>																											

鹿島建設株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none"> ● 炭素税等が課税されると、建設コスト、調達コストの増大に対して、過当競争下の建設市場において価格転嫁の遅れがビジネスパフォーマンスに影響する可能性がある。 ● 異常な暴風雨や建設現場作業員の熱中症回避等により、生産性の低下や品質への悪影響、工程遅延等が懸念される。 ● 省エネ建物、再エネ施設、防災インフラ等へのニーズの高まりにより関連市場が拡大すれば、当社の技術力を活用できる機会が増す。 ● 顧客の気候変動問題に対する意識の高まりにより、競争入札において、使用材料の低炭素化や、施工中に排出されるCO2の削減などが求められるようになれば、当社の固有技術の活用機会が増す。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"> ● 建設業は、社会基盤整備を担う産業として、気候変動問題に積極的に対応し、持続可能な社会を実現することに大きく関わっていかなければならない。持続可能な社会に向けて建設業とその関連事業を行う当社が果たすべき役割を、「鹿島環境ビジョン：トリプルZero2050」として策定。その実現に向けた具体的な目標として2030年の到達点としてターゲット2030を策定。

鹿島建設株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none"> ● 2011年度の全社環境委員会にて、環境に対して全社一体感のある取組みのために、長期ビジョンを策定するよう経営層から指示を受け、全社横断の環境マネジメント部会にて長期ビジョン案を作成、2012年度の全社環境委員会で承認され、2013年3月に公表。 ● その後のパリ協定の発効をはじめとした、脱炭素に向けた世の中の大きな潮流を受け、現在、目標について点検・見直し中。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 年間約1500の現場が稼働し、さらに現場内で使用する重機等の燃料は協力会社負担であることが多いため、合理的かつ正確なデータを収集することが困難。 ● 一品受注生産のため、サプライチェーンの裾野が非常に広く、調達の情報管理が困難。 ● 海外に連結子会社である現地法人が約100社存在しているが、各社その国の法規制に則った事業活動をそれぞれに展開しており、一元的な排出実態の把握、削減の要請などが非常に困難。